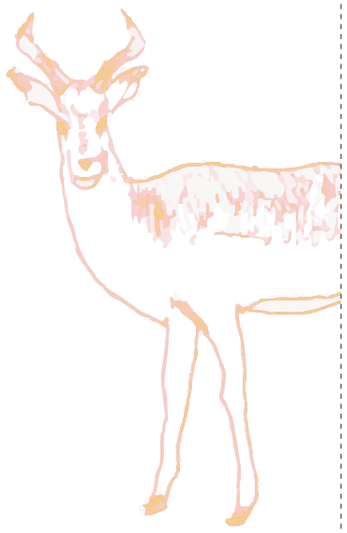


お問い合わせ



医療法人 医王寺会 地域連携室

0598-31-3481

問い合わせ可能時間：月曜日～土曜日 9:00 ～ 17:00
お気軽にお問合せください。



「家で最期まで暮らす」を支える

医王寺訪問チームのご案内

訪問診療
訪問看護
居宅介護支援
訪問介護

「家で最期まで暮らす」を支える連携



医王寺訪問チーム

※医王寺訪問チームのサービスは、他法人の事業所との組み合わせやサービス単体での利用が可能です。



自宅で最期まで暮らしたい

地域で働く医療介護職は、「家で最期まで暮らしたい」という想いを支えるための専門職です。
医療や介護が必要になっても『一緒に過ごしたい人がいる』『最期まで食べたいものがある』『やりたいことがある』などのあなたの想いを聞かせてください。

医王寺訪問チーム

訪問診療



いおうじ応急クリニック　0598-31-3481
問い合わせ可能時間：月曜日～土曜日　9:00 ～ 17:00

医師が定期的に家へお伺いし、診察・検査・処置などを行います。薬局と連携し薬の処方も行います。いおうじ応急クリニックでは外来診療も行っています。

24時間対応

訪問看護 / 訪問リハビリテーション



笑顔の街訪問看護ステーション　0598-31-3483

看護師が家へお伺いし、医療処置・薬の管理や日常生活の援助を行います。リハビリ職がリハビリをすることも可能です。発熱など緊急時でも、気軽に電話で相談をして頂けます。

24時間対応

訪問介護



笑顔の街訪問介護ステーション　0598-31-3486

ヘルパーが家へお伺いし、排泄や入浴の援助などの身体的な支援や、食事の準備や掃除など普段の生活のお手伝いをさせて頂きます。

ケアマネジャー



おうちとつなぐ居宅介護支援事業所　0598-31-3485

要介護の方が、家で自分が希望する生活を送ることができるよう、ご本人やご家族の希望を聞きながら、介護サービスの調整を行います。

24時間対応

訪問薬局



医師から処方箋を受け取り、お薬を自宅に届けたり、薬のことでお困りのことに対応させて頂きます。お薬の飲み忘れがないよう、お薬カレンダーなどの提案も行います。

福祉用具



介護が必要になっても、自分の希望する場所で生活することができるよう、手すりの設置や介護ベッドなどの貸し出しを行います。



最期までこの家で過ごしたい

医王寺会の訪問チームには
「家に帰りたい」「家に居続けたい」という想いを
支えるためのメンバーが集まっています。

私たちは、病状や環境の把握だけでなく、
その方の想いを聞き、その方が暮らしの中で大切にしたいことを
考慮した支援をします。



暮らしの場が人を元気にする

病院などの治療を行う場から住み慣れた場所に帰ってくると
元気になってくる方がいます。

慣れた家具・匂い・家族との関わりや
「自分でやる」という意欲を大切にしていきます。





やりたいことがある

高齢者だから、認知症があるからという理由で、
やりたいことを制限することはありません。

趣味や好きなことを教えていただき、
リハビリテーションなどを通して
制限がある中でもできるようにどうしたらいいかを
一緒に考えていきます。



制限する医療から笑顔のための福祉へ

私たちの医療や介護は
病気を治すためやオムツを変えるためだけのものでありません。

病気や治療の話を超えて、
今までのことやこれからのことを話す中で、
専門職であり松阪地域の隣人として
その方の笑顔につながるような支援をします。



最期まで食べたいものがある

人生の楽しみの１つである「食事」。
病気があったり介護が必要になったりすると
食べるものが制限されることがあります。

そんな時でも、好きなものや食べ慣れたものが
食べられるように支援します。



食事制限や嚥下障害があっても「食べる」を支える

「口で最後まで食べる」ために、
リハビリテーションや栄養指導、時には調理実習を通して
「美味しい」「食事が楽しい」と思える時間が
可能な限り長く続くよう支援します。

ぜひ、好きな食べ物や
思い出の食べ物を教えてください。

アドバンスド・ケア・プランニング

ACP

自分の最期について考えるのに
早すぎることはありません

エーシーピー ACP って？

人生の最終段階において自分がどのような生活をしたいか、どのような医療やケアを受けたいかを本人が家族、医療・ケアスタッフと話し合う過程のことです。

なんで必要？

ACP は、終末期において、本人が希望する生活や受けたい医療・受けたくない医療について事前に話しておくことで、医療やケアを選択する際の重要な手助けになります。

いつ話すといいの？

ACP は、送りたい生活や受けたい医療をその場で決めなければならないわけではなく、話し合う過程の中で、本人と関係者の思いを共有することが重要です。そのため、いつ話しても早すぎるということはありません。



Advance Care Planning

大切な人と話しておきたいこと



家族がどうしたいかも大切ですが、
話していただきたいのは
「本人がどうしたいと思っているか」です。
認知症があったり、本人がうまく話せない場合でも
「本人だったら」という視点で話しましょう。

- 終末期（身体機能や認知機能の低下を伴う）に、どのような生活をしたいか
- どんな治療をどこまで受けたいか、どんな治療を受けたくないか
- 最期までやりたいことは何か
- どこで誰と最期まで過ごしたいか
- 言語表現が難しくなった時に、代理で意思を尊重してくれる人は誰か
- 本人の今までの経験や大切にしてきたこと

…など

